

日清事件  
大流行  
新歌百種

特53

145

074399-000-4

特53-145

日清事件大流行新歌百種

浮世仙人 / 戲作

M27

CEI-1651



日清事件  
大流行  
新歌百種

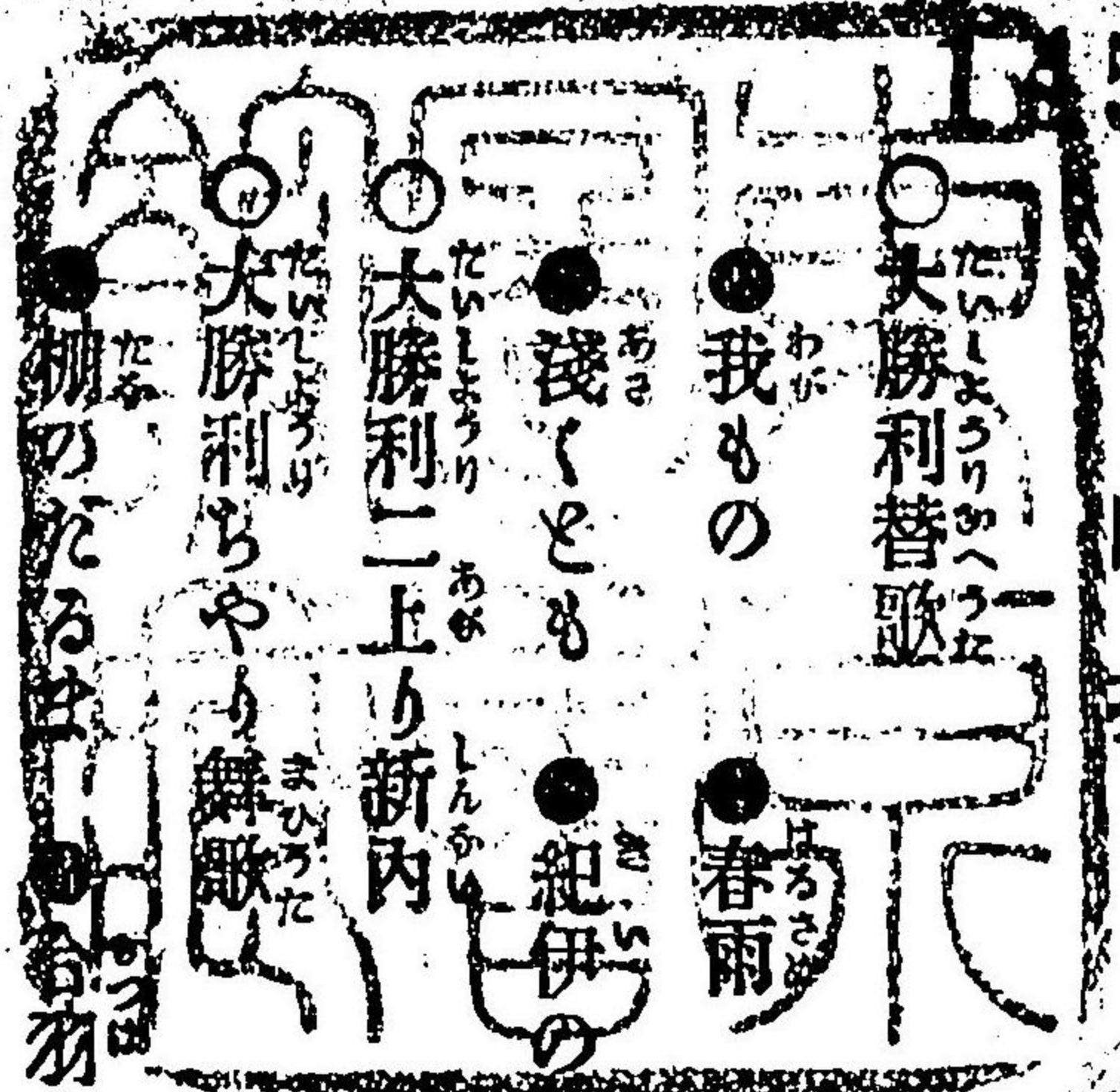
7-11 3990





日清事件  
大流行新歌百種

目次



特53  
185

- 深川
- 因碓いなば
- なまへまぢく

○ 大勝利都々逸 九丁

○ 大勝利字餘りよしこの十二丁

○ 大勝利大津畫節 十三丁

● 李鴻章の寢言 ● 酒の品意見

● 愚痴

○ 大勝利とつちりどん節十五丁

● よい手本 ● やとひ兵

● 支那どりこ ● 支那海軍

○ 大勝利伊豫節 十七丁

● 旅順口 ● 禮義知らず

● 支那の行末 ● 外國新聞



○大勝利琉球節	十九丁
○大勝利チヨンニ節	二十丁
○大勝利ヨカチヨロ節	二十一丁
○大勝利追分節	二十二丁
○大勝利梅ケ枝	二十三丁
○大勝利仙臺節	二十四丁
○大勝利名古屋甚句	二十五丁

日清事件  
大流行新歌百種目次終

日清事件  
大流行新歌百種

浮世仙人戯作

替歌

我がもの思へど、豚の尻尾を肩ま下げ、恐がら  
逃げる支那の兵、腹ある千鳥足、立ッてはつまつさこけて泣く  
實にたわいかなしわいな  
我が國は、思へば強し勝つ、國の大きな支那にかつ、群がり  
逃げる支那の兵、狼狽、さりとては弱い敵のや  
實に意苦地がな



○殺されに、のこくうせるチャンくの、乞食の兵士物わらひ、貫  
 ひ袋に丸入れて、腰には缺けた櫛をさげ、むさい頭にどろろまきドン  
 と音した大砲に、目玉むき出し泣き叫び、サア命がないとばらくと  
 サアサアとんど、逃げていぬ

●万歳

大馬鹿に奴チャンくの李鴻章が叫び泣きます 愛想つきける阿房顔  
 の年寄りがてら、頭より見ツともないのに、奇妙な髪下げゝるは、  
 誠に可笑しう候ひける 唐の司の頑固爺オイよく聞けよ 日の本大兵  
 、勇の敵せぬ勝はできぬ 弱いやつく、打ち負けてころくくに 大  
 負けメツチャ、ろらと一散に逃げます馬鹿夷 危ないはいと逃げ泣き  
 まよふ あかないチャンくと笑はれたるのと、寔に女々しう候ひけ  
 る よしにせい、如何しても負けるよしにせい分捕るものは何々

大旗小旗、玉や大砲粟に甘薯、馬鹿生擒、數多の金銀と取ツたるもの  
 の數知れず、城を打取り城の中見れば、金銀たんと、玉や彈藥種  
 を引きちらち、品々捨て、いろく結構な品物にて候ひしが なる  
 取りの小氣味よさ、おどしいれたる我が大刀風刃向ふものなさは、實  
 にも勇まし氣味よきことなり、日本の御旗はひらりく 輝き渡りて  
 凱歌く、世界に轟く、ろつちもこつちも凱旋のお祝いと實にも目出度

●あさくとも

○臭くとも窺いて見たれチャンくの、生擒馬鹿奴が風取る、窺いて  
 見たか彼のざまを、ほんにむさいじやないかいあ  
 ○泣かずとも降参すれば助けると、日本兵に睨まれて、ドンと尻餅手  
 を合はす、支那は弱いじやないかいな  
 ○氣張ツても、逆も叶はん李鴻章、免してくれとあやまりて、豚尾頭



を下げるのが、お前の爲じやあらういな

●紀伊の國

支那の國、腰無國のしみたれで、捕虜取られた兵澤山、ふなく氣  
脱の甲斐性なし、さて當惑を致します。頭や身なりは見ともなく、包  
の汚れた小荷物を、かつぐは乞食のけた槐、歩けば南瓜の首振りて、  
足折りころんで泣き女郎、泣いたび眞黒くナア、くりくり眼に露た  
りて、聲を張りあげ愁面

二上り新内

○のらくら海月やメボ章魚の、兵が何万おればとて、唯一打ちに追ひ  
まくる、朝日に匂ふや櫻鯛

○老ぼれ爺の李鴻章、腰は弓腰鋪九鎗、進み軍器の村田銃、負けは初

手から知れたこと

○死んでしまへば助かるに、何をぐぐぐ李鴻章、外國公使に跳ねら  
れて、またも上塗り恥さらす

○さしも堅固の旅順口、おみく日本に攻取られ、ハンチッケンの鼻  
柱、折れて笑止やお氣の毒

○負ける筈かよ支那兵は、負けて戻った葉志超、御前に出ればおら  
やつ、手柄くいと褒美やる

○こゝ咽喉と固めたる、旅順砲臺破られて、胸はひやくとせうと  
威海心配海向ひ

○馬鹿よ立派な軍艦も、つかふ人間ない故に、出ればズドンと沈めら  
る、厄介渤海逃げ隠れ

○南瓜頭の土左衛門、黄海わたりの養蠶は、今年や得物の當り年、腹



ふくらして跳躍る

○李鴻章親爺の面見れば、木から落ちたる梅の實の、日よさらされた  
ようなぞへ、色が青うて皺だらけ  
○逃げるが仕事の支那の國、それに女の其足は、何故小さいのがよ  
のやら、ほんに勘定の合ひぬこと

◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎  
ちやり舞歌

●棚のだるま

○あまりしんき臭さに、棚の南瓜をちよいとふるし、張り飛ばしたり  
、マアころばしても見たり  
○あまり戦争やけるに、うらの天子とちよい怒り、腹を立てたり、マ  
ア勳章とツても見たり

●合羽や

○あまり卑怯なようで、人が馬鹿奴とせしるがまゝよ、逃げる天狗鼻  
、勝手自慢する、支那の大將が兵隊のこして先さへ逃げる、助けてお  
呉れ、恐いわいな

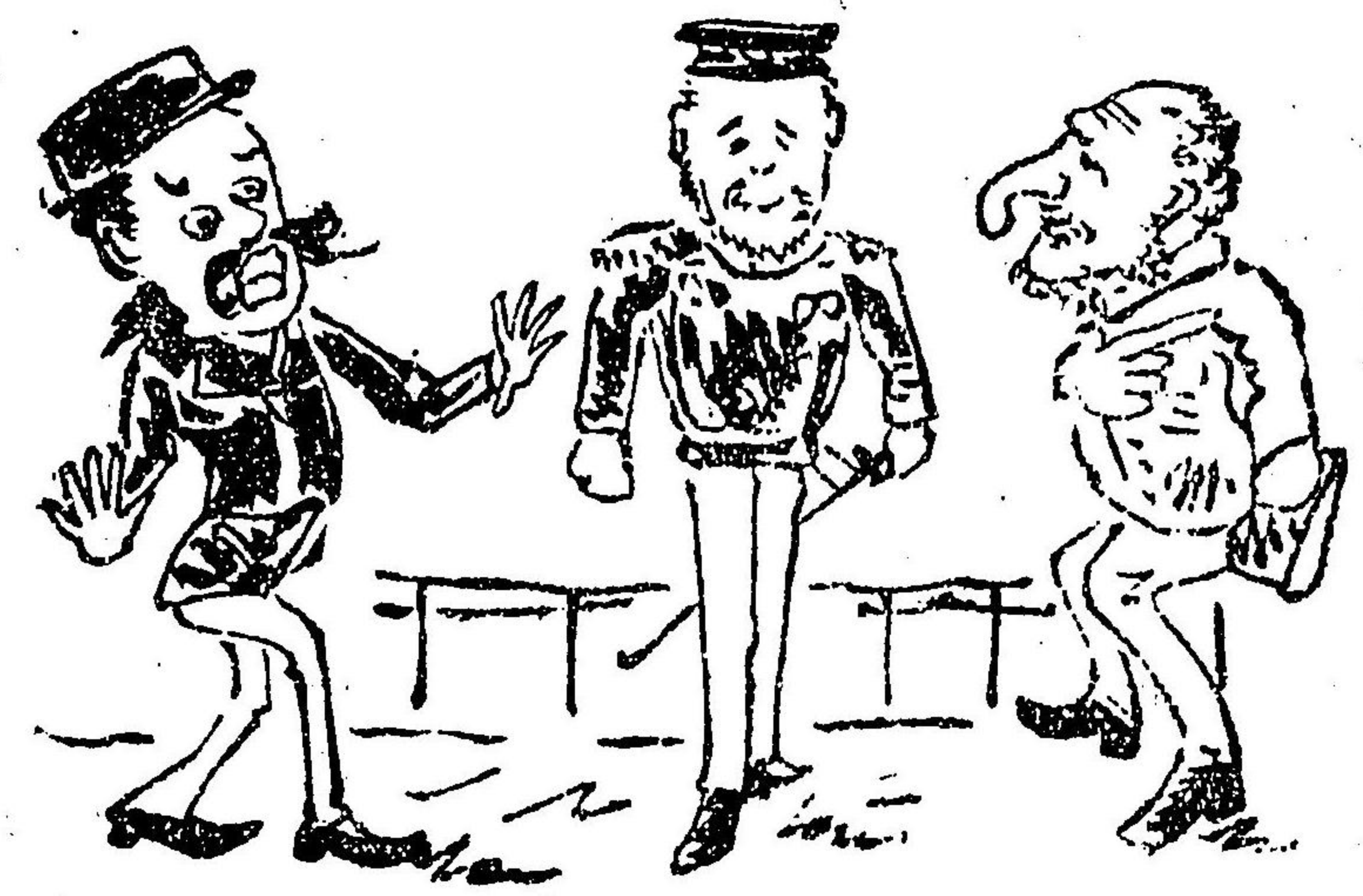
●深川

○豚尾ナアヨイトナア、くるくちやんく坊主、頭張りとはせよこ  
れわいさのさいさくトウ  
○乞食ナアヨイトナア、來るのがちやんく坊主、さけるさまを見よ  
これわいさのさいさくトウ  
○北京をナアヨイトナア、取られてちやんくこまる、何處へ逃げよ  
かこれわいさのさいさくトウ

●因州いさば



○清國港の七海海岸で、しかも棧橋の真中で、異人が三人出逢ひしが、先なる異人が運送長で、中なる異人が軍艦長で、あとなる異人が商船長で、先なる船長の云ふことにや、某豊島で運送船を、日本の軍艦に沈められた、まことに日本は強ござる、中なる船長の云ふことにや、某威海衛で大砲打ち、日本の艦長に睨まれて、膽をつぶして痛とござる、あとなる船長の云ふことにや、某神戸で調べられ



拒んで日本兵に叱られた、思ひ出してまことに恐とござる

●おまへちゃんく

○おまへちゃんく捕虜かへ、垢だらけ、日にやけお色が眞ッ黒け、  
 こちやかまやせんかまやせん  
 ○おまへちゃんく章魚坊主、また敗けて、まけるばかりでお氣の毒、  
 こちや負けやせんまけやせん  
 ○おまへ負けくまた負けた、糞坊主、ちやんく親爺の意久地なし、  
 こちや面白過ぎまーを見よ  
 ○こまい國でも日本は、強い國、赤髯奴が目を醒す、こちや叶やせん  
 かなやせん

都々逸



- 何をイギリス中裁いやだ、獨逸も米魯西亞を佛てやる
- 攻めぬうちから北京を退去、逃げるにや氣早い豚尾漢
- 胸はどきどき足震はして、青い顔する李鴻章
- 旅順取られて奉天取られ、頼む杖さへ北京を折れる
- 思ふまいぞへ最思はぬと、思へを思ひ出し泣く李鴻章
- 渤海入口日本兵に、守ッてもろうて樂やすみ
- 北京の都の天氣を問へば、夜露の雨が降る
- 頼む杖さへ北京を折れて、すがる天津も皆切れた
- 逃げて上海局外なれば、なぞと道臺すへてゐる
- ついた吳松さへはげ現はれて、天津地知る皆が知る
- ちゃんく負けくお爺がまけど、拳もはるゝに笑はれる
- ちゃんく帝國閉こくさらし、清から困ッて和議頼む

- 和を乞ふ使の乗ッたる船は、幽靈の逆立ちレイニウ號
- 和を乞ふ使は顔色青く、船足招商局がない
- デットリングと肥ッた人が、豚の斷はり云ひに来る
- うらだばかりは大きひけれど、腹はうらだよらの奴
- からく負けても勝ッたと云ふて、から筒放して金貰ふ
- 品玉つかひの皺面爺、しくじり爺よ死にさらせ
- くわいに能う似た頭の支那兵、くわいくと泣いて逃げ
- 豚尾が鶏取らふとしたが、蜻蛉が怒ッて追ひまくる
- 北京の騒動目に見るような、南瓜と南瓜の鉢合はせ
- 長い髪毛が尻をば叩きや、日本兵が來かと又逃げる
- ちゃんく騎兵は逃げ足早い、髪毛が自然に馬叩く
- 支那の軍艦打沈められて、姿は揚威に教違號



○何處へ逃げよに廣乙となどど、しやれる處か船を破れ

○威海清敗旅順を取られ、渤海もツかいやくたいじや

○支那の軍艦は脆いじやあいか、總隊沈めと皆沈む

○いなぎる煙に沙魚飛ぶ丸に、軍艦青魚たち魚逃げまはる

○鯨も縋らもちやんくの死骸、はうぐく鯨々浮いてゐる

○烏賊にも美事をヌボ章魚頭、海月と雜居で浮きしづみ

○このしろ取られよがこちやかまやせぬ、鯨々命が拾ひ鯛

○豹狼虎龍が猪が大事、熊や霞と逃げて犬

○雀々と日本兵が行けば、城は烏で逃げた鳩

○字餘りよしこの

○

○牙山の營所に支那兵が三人支那將がひとり、なんばさびが四ツあッ

て。支那兵がなんばさびひさや、支那將がなんばさび喰ふ、支那將が

なんばさびひさや、支那兵がなんばさび喰ふ、四ツのなんばさび三ツと

一ツと分けて喰ふ

○平壤近く又兵卒が三人、軍曹がひとり、支那兵が多く居ッて、軍曹

が支那兵打ちや、兵卒が支那兵追ふ、兵卒が支那兵打ちや、軍曹が支

那兵追ふ、多くの支那兵三人とひとり追ふて行く

○黄海戦さに日本艦が十二艘、支那艦が二十艘、大砲を打ち合ッて支

那艦が大砲打ちや、日本艦も大砲打つ、日本艦が大砲打ちや、支那艦

は負けて逃げ、多くの支那艦ものゝ見事に打ち沈め

○大津繪節

●李鴻章の癡言



支那の李鴻章の麻言を聞けば、死に損なひよ老はれど、世間の人にく  
 ざられて、何ば私でもおめく  
 と。活きて居る氣はなけれども  
 ・弱いと思ふた日本に、負けて  
 面目ふみつふし、何の生恥さら  
 そうぞ、さりながら、此の長年の  
 その間、掠めてためた此の金が  
 ・心のこりで成佛出来ぬと愚痴  
 こぼす



●酒の品意見

徳利とさくがよい、戦ふたびのはいせん、楊子堅固の砲臺も、城も  
 取られて鉢皿し、ちよくやちつとの損じやない、今更云ふても是非は

ない、ちやんく早く酔さまし、さうぞお慈悲じやおなさけと手を合  
 とし、さうをかんびんしてたぐと、首を下げて此の、ちは、日本を東  
 洋のめいしゆと頼むがよいわいな

●愚痴

取らふと思ふた朝鮮國は、やみく日本に儘にされ、九連鳳凰安東縣  
 ・金州城や大連灣、旅順口をもおとされて、今は我身の住家まで取ら  
 れること口惜しや、さうぞ中裁きされてと、泣くくも、頼めど日  
 本に遠慮して、何處も相手にして呉れず、我身恨んで自滅するより外  
 ない

とつちりとん節

●よゝ手本



支那の大敗實よい手本、日の本御國に手を出せば、何處の奴とて用捨せぬ、されば御國をわなとりて、我儘氣儘しちらした。赤髯奴も夢がさめ、高い鼻をば捻ぢいがめ、青い眼をさよろくと、顔の色まで青くした

●やとひ兵

可愛そうな上彼の支那兵は、安い給金で買ひ出され、持たことない鐵砲を、肩上げて戦争させられて、強い日本兵に惱まされ、頼む大將は腰抜けで、命からしく逃げ出し、死ぬるか生擒となる外は、逃げて泥棒となるばかり

●支那捕虜

みるも穢ないちやんく倅虜、着物は破れて垢だらけ、足は跣足や靴片足、缺けたお椀を腰にさげ、鼻をもぐ程わる臭き、體は中々大きひ

が、日干の南瓜見るようき、頭并べて遠慮なく、目ばかりバチく取る

●支那海軍

哀れなるかな支那海軍は、船は美事なものなれど、乗手がないのでメチヤクに、塵や木の葉じやあるまいし、千万金を入れながら、海の藻屑と沈められ、僅残った其船も、内海深く追ひ込まれ、あだに朽らすおしひもの

伊 豫 節

●旅順口

赤髯奴のハンチツケンが、高い鼻をばびこつかせ、自慢で築いた支那の砲臺、東洋一の旅順口、長い月日の辛苦をへ、たつた一日ひとばん



で、物の見事におどされて、日本の兵に明け渡す、意氣地なし

●禮義知らず

せいでもよいのに強性張ッて、負けて今更頭下げ、それも自分に出てくることか、人を頼んで許してと、和陸願ひに来るとても、なみや大抵で免さりよう、何の糸瓜と南瓜は、見そこなふたか日本を、馬鹿にする

●支那の行末

金州おどされ旅順を取られ、牛莊山海皆取られ、頼む都もツイ北京のうちよ、芝罘太沽泡吹いて、ちやんく頭を振りたて、天津しやっちらん騒いでも、誠に威海の氣の毒、我身で我身を恨むより、はかはなし

○外國新聞

どうせしまいはこん負け戦さ、蝦と鯨のあらしひよ、なぞと悪口最初に

云ふた、赤髻奴の新聞紙、支那のころく負けを見て、この手柏の裏表、打て變はりて日本を、賞めて書き立て、じよさいなし



- 沖のどんななかで支那軍艦が、打たれて南瓜が浮き沈み、したりやよろく、清は負けく支那さんぐ
- 沖のかもめに汐時間へば、今年や南瓜に問ふがよい
- 豚の尻尾の頭を切ッて、命乞ひをばするがよい
- 李鴻章爺の彼の面見れば、しがんだ塵紙見るような
- 死んで仕舞へばくつろぐものを、生耻さらした李鴻章
- 清のら日本にや叶いぬなぞと、必死の場合にや洒落も出す
- 支那の大將はせんちで匿れ、満州とられて愚痴こぼす



○ちやんく頭を叩いて見れば、戦争負けたと音がする……………

チヨンヨ節

○いらぬチヨンヨして今更負け  
て、ちやんく泣面駈さらし



○ちやんく兵隊戦さにまけて

、足を打たれて跛引く チヨンヨ

○乞食兵隊ちやんく坊主、日本に手向ふちよんございな チヨンヨ

○弱いなりして法螺吹と立てた、のひも泣くくちやんく負け

チヨンヨ

○九連取られて鳳凰取られ、ようよと奉天逃げて行く チヨンヨ

ヨカチヨ節

○閉口したかへちやんく坊主、パツバヨカチヨロ、和陸願ひに人上

こそす ハテヨカチヨロ スイガ知ツちよるノホ、ノ 私しが見て知ツ

ちよるパツバ

○支那の大將は戦さに負けて……………負けて褒美をたまし取り……………

○赤鷲軍艦は大砲鳴らし……………威海衛で日本の邪魔をした……………

○李鴻章爺は泣面匿し……………無理に平氣な瘦我慢……………

○ハンチケン奴が盡した辛苦……………たつた一夜にこなみじん……………

○戦さする氣が無い故和陸……………なぞと云ふのは負惜しみ……………

追分節



○ア、エ意地を張ッても逆もじやないが、支那は日本にや勝てはせぬ  
スイ〜〜 またもちやん〜負けたかホィ 氣味の上い程も負け

じやキエ

○西へ追巻き東へ攻めて、支那を破るは日本兵……………

○逃げて大負け引かれて捕虜、俘虜見られたさまはない……………

○日本の大山々縣大將、支那の四百州を押しつぶす……………

○日本の軍隊みじんに破る、なぞと吳大徵な法螺を吹く……………

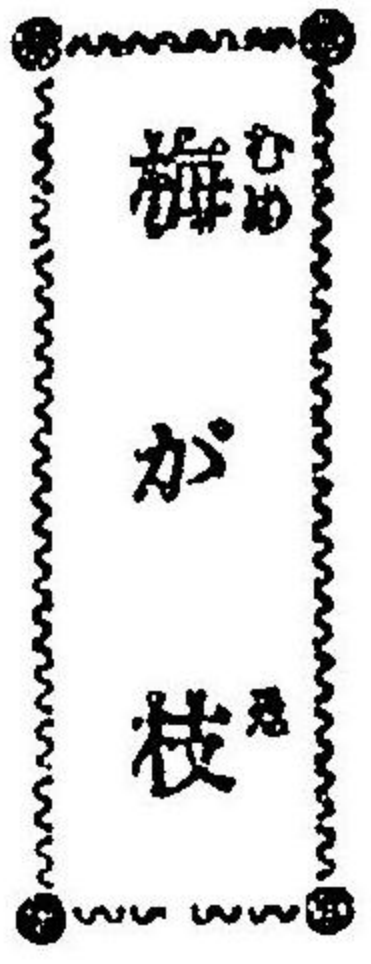
○日本の軍艦實吉野艦、勇武扶桑の金剛艦……………

○出れば破壊され匿れりや籠の、取るに足らない支那の船……………

○負けたころはらじだんだ踏んで、終にや清代踏みつぶす……………

○勝てと云ふたどて勝りよか日本、日本は神州つよい國……………

○東洋第一最強國と、光り輝く日の御旗……………



○ちやん〜の章魚坊主、負けて力も盡き果てた、負けて力も尽きた

ゆへ、困ッて和睦をソ〜頼む

○驕慢のちやん〜も、今度は閉口したのである、若しも閉口せぬ時は

其時やまたもや打ち懲らせ

○渤海の入口の、旅順も苦もなく攻め破る、旅順口をば取る上は、ち

やん〜益々ソ〜困る

○白神の源次氏は、成歡で打死するときに、息も絶ゆ〜吹きならす

、喇叭に其名をソ〜残す

○田原の重吉氏、平壤を攻撃するときに、玄武門をば押開き、高き名



○我れから戦争をいたして、今更和陸は何のこと、假令黄河が逆さまに、流れて泰山崩れよが、釋迦や孔子が手を引いて、耶穌が証人に立つとも、ちやん／＼頭を地に埋めて、降参しなけりやコレナノマイ免しやせぬ

○聞いてびツくり見て眼をまはす、今まで見下げた日本國、ほんに此方の見損なひ、馬鹿にしたのが通りじや、うかど是れから手は出せぬ、粟粒見るよな國をして、支那の四百州を踏みにじり、勝ちに乗つたる日本國、油断をすれば身の大事、大きな躰を震はして、頭をベコ／＼振廻はし、御國は東洋第一の、最大國よと機嫌とり、得意のお世事の種を蒔き、赤髻奴の毛虫めが、高い鼻をばコレナンマイひよこ曲め

○支那の爺は大馬鹿者で、役人は皆々泥棒よ。そこで兵隊は乞食だ、馬鹿と泥棒と乞食が、ちやん／＼騒ぎをやつたとて、連も日本にや叶やせぬ、馬鹿と泥棒と乞食を、一處よあつめてぐる／＼と、豚の尻尾で引ツくり、太平洋の海底へ、放ッてしまはにやなかくに、東洋平和はコレナンマイ出来はせぬ

名古屋甚句

○飛んでころんで支那兵は逃げてチー、負けたどうはら罪のない、百姓げらを斬殺し、女を捕へてはづかしめ、家に火を付け焼き拂ひ金銀ひやみに奪ひ取り、其癖味方の兵糧や、軍器彈藥金銀は、城に残して逃げて行き、此れを日本のエーエー分捕なるぞ

○今度此のたび戦争に就いてチー私しの聞いたる勝戦さ、東十一の砲



蓋の、旅順口をば陥入れ、奪ひ  
 取つたる大功蹟、頭よ戴く軍帽  
 の星の光りは眞輝く、旭の御旗  
 押立て、肩には名譽の村田銃  
 、腰には鋭き日本刀、昇る旭に  
 閃めかし凱歌あげたる勇ましき  
 、率ゆる大將は名も高き、たし  
 か大山大將さん、勝に乗つたる  
 我兵は、牛莊太沽を踏みにじり  
 、北京城をば乗つ取つて、城下  
 の誓をなすまでは、腹の虫めが  
 エーエー承知せぬぞ

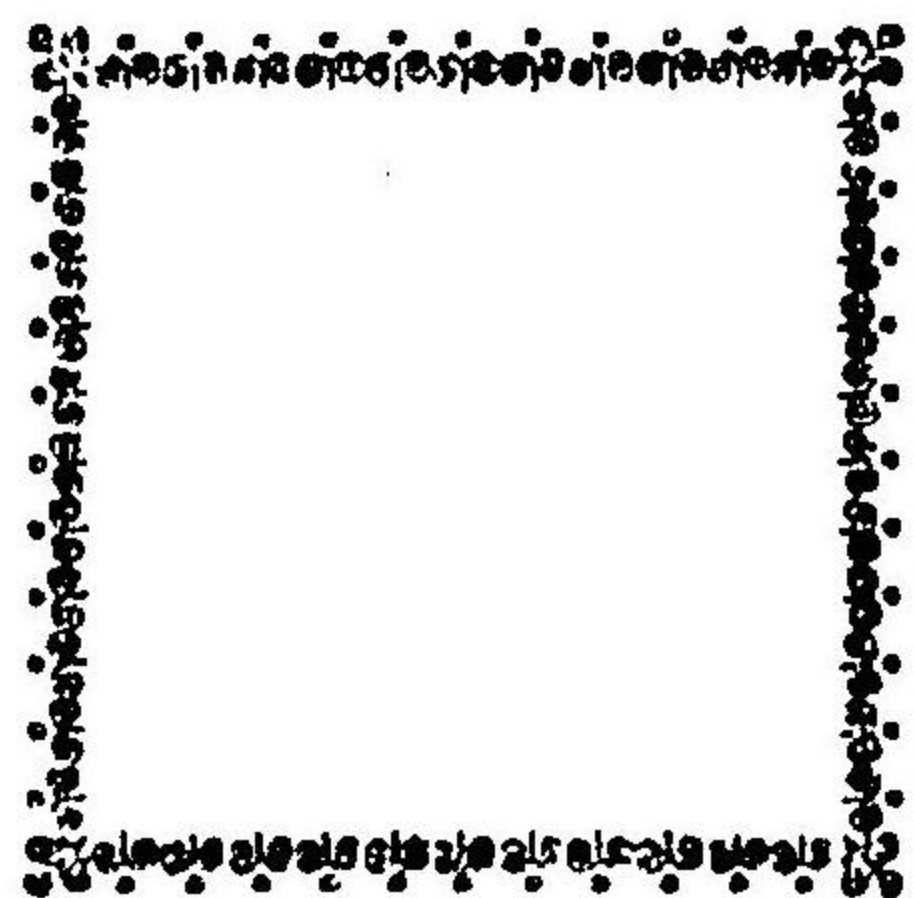
日清事件 新歌百種 終  
 大流行



明治廿七年十二月十二日印刷  
 明治廿七年十二月十八日發行

定價金八錢

版権所有



編輯者 北川英也

發行者 柏原政次郎

印刷者 前田菊松

大阪市東區内本町橋詰町  
 六十八番屋敷周彌社

大阪大市費別書林  
 梅原岡村田志鹿赤岡柳三  
 平彦野忠眞兵衛喜本  
 七助七助七助七助七助  
 前川田青此中田中松萩  
 川藤三三三三三三三三  
 兵衛助助助助助助助助  
 諸府縣諸府縣諸府縣諸  
 名古屋同西同神同同同  
 片堀川大梅吉熊矢山路  
 野藤四助助助助助助助  
 助助助助助助助助助助  
 阪松高山山山山山山山  
 早土岡宮長崎本崎山島  
 居田川崎野井田井田井  
 與爲臣次吉助吉助吉助  
 社平助吉助吉助吉助吉



主文堂柏原書店藏版目錄第一號

三島中洲先生序池田廣洲先生著	六号文字詰紙一册	特別正價金十八錢郵稅八錢
健速帝國作文全書	三百廿一頁全一册	特別正價金十八錢郵稅八錢
普通高等用文五千題	紙數三百卅一頁全一册	特別正價金十八錢郵稅八錢
●教育●德行●禮樂		
●政治●志氣●識見		
●論●經濟●規箴		
茶の湯主客獨稽古	寸珍美本全一册	特別正價金十錢郵稅四錢
●忽●菜●獨●案●內	細圖圖入全一册	特別正價金十二錢郵稅四錢
●秀●吟●發●句●獨●案●內	美本全一册	特別正價金十五錢郵稅六錢
●意●匠●發●句●詞●の●彙	美本全一册	特別正價金二十錢郵稅八錢
●自●在●發●句●友●か●い●み	和美美本全一册	特別正價金十五錢郵稅六錢
●俳●諧●七●部●集●講●義	上下二册帙入美製本	特別正價金六十錢郵稅十六錢
●今●人●類●題●金●玉●集	寸珍美本全一册	特別正價金十錢郵稅四錢
●淨●瑠●璃●及●三●味●線●秘●傳	美本全一册	特別正價金十錢郵稅四錢
●築●山●水●石●組●新●撰●庭●作●傳	全四册	特別正價金五十錢郵稅十二錢
●園●生●入●垣●術●決●斷●活●法	全四册	特別正價金廿錢郵稅八錢
●都●々●逸●袖●の●な●が●め	寸珍美本全一册	特別正價金八錢郵稅四錢

日本帝國 大勝利 大新作諸藝競

チャヤン／＼ナカセ ●美本全壹册 ●日清事件已來我軍連戰連勝ヲ  
 祝シ今回壹萬部限リ特別郵送  
 費金四錢郵券代用壹割増之事 金拾錢

諸君ヨ我四千万同胞諸君ヨ實ニ日清事件已來我陸海軍隊ノ連勝祝スト  
 共ニ北京ヲ落シ凱旋ノ時近キニアラントス其時コソハ戶毎ニ國旗開ク  
 祝宴ノ席上ニ於テ必要ナル大新作諸藝競ハ本日ヨリ賣出シ升本書目錄  
 ●日清地歌及替歌 ●日清風琴唱歌 ●日清長歌 ●江戸歌 ●日清端歌同替  
 歌 ●日清ちやり舞 ●日清よしこの ●日清大津繪節 ●日清伊豫節 ●日清  
 追分節 ●日清琉球節 ●チャ／＼ラカ節 ●日清鎌倉節 ●日清ひやばこ節  
 ●日清どつこいしよぶし ●日清きやり節 ●日清トツナリト ●日清海  
 安寺 ●日清推量ぶし ●愛國ぶし ●日清末の爲節 ●日清丹後節 ●日清仙  
 臺節 ●日清二上り新内 ●日清甚句 ●日清米山甚句 ●日清ヘラ／＼ ●日  
 清テツベケ節 ●日本勝利ぶし ●日清愉快節 ●日清はやり歌 ●日清滑稽  
 演説 ●日清落語 ●日清二〇加 ●日清地口 ●日清ちぞ掛 ●日清新劍舞 ●  
 日清あはたら經其他種々



T-11



